
プロジェクト リース

項目 本日の審議事項

本日の審議事項

1. 2016 年 8 月に公表した中期運営方針では、我が国の会計基準を国際的に整合性のあるものとするための取組みの一環としてリース会計を掲げており、これを踏まえて、第 375 回企業会計基準委員会（2017 年 12 月 20 日開催）において我が国におけるリースに関する会計基準の開発に着手するか否かについて検討することが承認され、第 387 回企業会計基準委員会（2018 年 6 月 21 日開催）及び第 78 回リース会計専門委員会（2018 年 6 月 8 日開催）より検討を開始している。
2. 第 387 回企業会計基準委員会及び第 78 回リース会計専門委員会では、リースに関する会計基準の開発に着手するか否かを判断するにあたり、「我が国における会計基準の開発に関する予備的分析」（以下「予備的分析」という。）について検討を行った。
3. その後、第 388 回企業会計基準委員会（2018 年 7 月 6 日開催）及び第 79 回リース会計専門委員会（2018 年 6 月 26 日開催）から、予備的分析に記載された事項についてより理解を深めるために、以下の検討を行っている。
 - すべてのリースに係る資産及び負債の認識
 - IFRS 第 16 号「リース」及び Topic 842 の基本モデルの確認（リースに係る費用認識）及び損益計算書に与える影響の分析
 - リースの識別及びリースとサービスの区分
 - 基準適用に係る財務諸表作成者のコスト
 - 重要性に関する事項
4. 本日は、予備的分析に記載された事項について、以下の点について、より理解を深める。
 - IFRS 第 16 号の早期適用企業の財務諸表の影響分析（審議事項(4)-2）
 - リース期間（審議事項(4)-3）

審議事項(4)-1

- リースとサービスの差異及び未履行契約との関係¹（審議事項(4)-4）
- なお、第79回リース会計専門委員会（平成30年7月6日開催）で聞かれた意見については審議事項(4)-5に、第80回リース会計専門委員会（平成30年7月20日開催）で聞かれた意見については審議事項(4)-6に記載している。また、第389回企業会計基準委員会（平成30年7月24日開催）で聞かれた意見については、審議事項(4)-7に記載している。

以 上

¹ 本論点は、第389回企業会計基準委員会及び第80回リース会計専門委員会で検討した「すべてのリースに係る資産及び負債の認識」の論点にかかわるものである。